

中国:大気汚染 北九州市が観測強化、4台追加

毎日新聞 2013年02月06日 西部夕刊

中国から越境飛来して大気汚染を招く直径2.5マイクロメートル以下の微小粒子状物質「PM2.5」について、北九州市の北橋健治市長は6日の定例記者会見で、市内の3カ所の観測機を4台追加し、各区ごとに設置する方針を明らかにした。新年度予算案に計上し、新年度に設置、再来年度の運用開始を目指す。

市内では1月31日、同粒子の1日平均の観測値が国の環境基準（1立方メートルあたり35マイクログラム）を超える44.6マイクログラムを記録した。市はこれまで小倉北、八幡東、若松の各区に観測機を設置し、1日平均観測値を1カ月ごとに市のホームページ（HP）で公表している。再来年度からは市のHPでリアルタイムで情報提供するという。

北橋市長は、中国との政府間協議や健康影響の基準値の設定を政府に求めていく考えも示した。【穴戸護】

「大気汚染を放置し住民を被害にさらす北九州市」

いのち・未来うべでは、北九州市震災がれき焼却以降、一貫してPM2.5の観測を強化しリアルタイムでデータ公開するよう何度も北九州市に質問や要望、行政交渉してきました。毎日新聞のこの報道には、間違いがあります。北九州市は1/31の時点で最新データの公表は11月分まででした。それも市民の追求によって昨年11月にそれまでのものをまとめて渋々出した形です。「1ヶ月ごと公表」どころか、中国PM2.5問題が大きくなった2月になって慌てて2ヶ月分出した有様です。北九州市は製鉄所・化学工場が海岸に数多く存在する100万都市です。「環境都市」と言いながら、今までたった3箇所しか測定局がなかったほうが異常です。（山口県内には石油コンビナート周辺を含めて全部で16箇所のPM2.5の測定局があり、リアルタイムで県環境保健センターのHPで見ることができます。）

今回、北九州市が増やす観測機もわずか4台で、全部で7測定局です。市内3箇所のごみ焼却場で現在も、震災がれきは燃やされ続けています。中国由来のPM2.5だけでなく、通常の焼却工場や企業のプラントから出される燃烧系のPM2.5などを含めて複合的な大気汚染であることは間違いありません。市民にとっては大きな追加のリスクです。四日市ぜんそく、水俣病といった過去の公害に学べば、今回の観測機増設も遅きに失したと言わざるを得ません。がれき焼却後、体調の悪化を訴える市民の数は明らかに増加しています。多くの市民の要望、予防原則をまったく無視し、がれき広域処理という間違った国策に追従してきた北九州市の責任は大きいと思います。

「ガレキ問題は、終わっていない。健康被害の救済をもとめ監視しましょう」

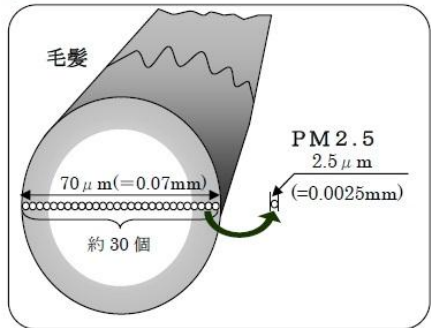
いずれにしても、焼却工場内部はすでに放射性物質やその他の有害化学物質、農薬などで汚染を受けていますので、震災瓦礫の焼却が終わっても焼却灰データや排ガスなど継続して注視していかなければならないことは明らかです。1/24に起こった痛ましい新門司焼却工場の作業員死亡事故の真相究明をすることと同時に、大気汚染の状況も常時監視、北九州市にさらなる改善を要求していくことが、対岸風下の市町村に住む住民にとって重要です。

微小粒子状物質（PM2.5）について

1 微小粒子状物質（PM2.5）について

（1）概要

- 直径が2.5マイクロメートル以下の粒子状物質の総称で、構成成分は問わない。（1マイクロメートル（μm）＝千分の1ミリメートル（mm））
- 粒子が小さいため、肺の深部（肺胞）まで入りやすく、表面に有害物質が吸着しているおそれがあることなどから、呼吸器疾患などの健康影響が懸念されている。
- 主な発生源（人為起源）ディーゼルエンジンの排出ガス（自然起源）土壌粒子、海塩粒子、火山噴煙 など



北九州市HP上に掲載されたPM2.5についての説明文中の誤り部分。
人為的な発生源は「ディーゼル車の排ガス」のみのような書き方ですが実際は、焼却炉から出る燃烧系排ガス由来の微少粒子状物質です。

北九州市は PM2.5 の最新データを公表すべきです。さらに PM2.5 の成分分析結果の公開を要望しましょう。全核種スペクトルデータを！

人為的PMとは「車や工場、焼却炉の排ガス」です。
焼却炉から出るPM(微粒子)が健康被害を及ぼすことは世界的に常識。知らないのは多くの日本人だけ。
～環境ジャーナリスト山本節子氏

必読！『ごみを燃やす社会—ごみ焼却はなぜ危険か』

山本節子著 築地書館

ハイキブツバスターズ北九州など 3 団体
北九州市に公開質問状、申し入れ書を提出

北九州市がPM2.5の観測機4台増設。再来年からリアルタイム表示。
2013年2月15日発行



2/7「がれき問題を考える会・福岡」「ハイキブツバスターズ北九州」「いのち・未来うべ」の連名で、北九州市長に新門司焼却工場での死亡事故について、申し入れを行いました。2/21の14時に「回答を取りに来ます」と市長秘書課と循環社会推進課に申し入れました。（中央は北川医師）



2/1に北九州市役所に電話で確認された北九州市民の方がいらっしゃいましたのでご本人の了解を得て転載いたします。

施設課 582-2180 2月1日(金) 10:10～に電話

Q:事故の経緯についての新聞2社の記述内容が違っているようだが、説明を。
A:どちらの記事も違ってはいない。溶融炉の壁のカスをくずして除去する作業をしていた。（炉の下にたまる。それを後にかき出す。）たまった灰の上に乗って、しゃがんで作業をしていた。その際、乗っていた所の灰が崩れたので、前のめりになり頭から灰に突っ込んだ。（上半身埋まる形）安全帯をしていたので、宙づりになった。（安全帯が安全ではなかったことになる。）門司署の検死では、窒息死。砂状のものが気道に入り気道を塞いだため。

Q:通常の作業をしていれば事故は起きないが、どこに問題があったのか？

A:灰の上に乗って作業をしていた点。

Q:マスクをしていたのになぜ窒息するのか？

A:マスクがずれたと考えられる。（ずれた原因を追及すると、そこまで細かいことは…と逃げる。）

Q:再発防止についてどのようなことをしているか？

A:市は再発防止策は考えるが、手順は請け負った業者が決めてくる。市の再発防止策としては、灰の上に乗らない方法で作業をするように求める。

いのち・未来うべ 通信 No.13

〒755-0029 宇部市新天町 1-2-36

まちづくりプラザ 2F「青空」内

080-6331-0960（代表・安藤公門）

http://blog.goo.ne.jp/flyhigh_2012

釜の中の固まった灰が作業の足場になるから、灰に上がってという表現になります。二人で作業、一人は無事です（森係長）



毎日新聞